

平成 25 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	倫理	担当教員	伊藤 隆弘(非常勤)	
学年学科	2年 全学科	通年	必修	2単位
学習・教育目標	(A-1) 100%			
<b>授業の目標と期待される効果：</b>		<b>成績評価の方法：</b>		
<p>われわれは人生の日々のなかで、さまざまな問いを自らに投げかけ、悩みながら生きている。その際、有益な示唆を与えてくれるのは、先人たちが残してくれた数多の言葉である。</p> <p>倫理の授業では、古今東西の思想家たちを取り上げ、彼らがたどった軌跡、ならびに、彼らの思想の内容を学習する。1年間の授業を通して、人間や社会のさまざまな問題を、順序立てて考える力を身につけていく。具体的な目標は以下の通り。</p> <p>①人類の知的遺産について知識を広げる。  ②異文化や多様な価値観への理解・関心を深める。  ③社会的諸問題に対する倫理的判断力を養成する。</p>		<p>以下の総得点 500 点に占める得点率で最終評価を行なう。  前期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点＋課題提出 50 点  後期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点＋課題提出 50 点</p>		
		<b>達成度評価の基準：</b>		
		<p>以下の各要素についての達成度を成績評価の基準とする。</p> <p>①人類の知的遺産について正しい知識を習得したか。  ②異文化や多様な価値観への理解・関心が深まったか。  ③社会的諸問題に対し論理的に考え、倫理的な判断を下す力が身についたか。</p>		
<b>授業の進め方と留意事項：</b>				
<p>授業は、教科書・図説（資料集）を使用した講義形式で行なう。授業では、多くの思想家を取り上げ、彼らの思想のエッセンスを説明していく。</p> <p>自分が興味・関心を抱いた思想家については、ぜひとも実際にそのテキストにあたってもらいたい。彼らのテキストは、多くの場合、文庫本などで手軽に手に入れることができる。</p>				
<b>教科書および参考書：</b>				
『倫理』（東京書籍）を教科書とし、『新編アプローチ倫理資料』（とうほう）を副教材として使用する。その他、必要に応じてプリント等を配布する。				
<b>授業の概要と予定：前期</b>				
第 1 回：イントロダクション				
第 2 回：ギリシア哲学①				
第 3 回：ギリシア哲学②				
第 4 回：ギリシア哲学③				
第 5 回：ユダヤ教とキリスト教①				
第 6 回：ユダヤ教とキリスト教②				
第 7 回：イスラーム教				
第 8 回：中間試験				
第 9 回：仏教				
第 10 回：中国の源流思想①				
第 11 回：中国の源流思想②				
第 12 回：日本思想の源流				
第 13 回：日本仏教①				
第 14 回：日本仏教②				
第 15 回：儒学と国学の思想				
期末試験				
第 16 回：フォローアップ（期末試験解答の解説など）				

授業の概要と予定：後期	
第17回：近世の民衆思想	
第18回：ルネサンス	
第19回：宗教改革	
第20回：合理論と経験論	
第21回：モラリスト	
第22回：社会契約説	
第23回：フランス啓蒙思想	
第24回：	中間試験
第25回：ドイツ観念論①	
第26回：ドイツ観念論②	
第27回：イギリス功利主義	
第28回：社会主義	
第29回：西洋思想と日本	
第30回：日本人の独創的思想	
第31回：「私」とはなにか？	
	期末試験
第32回：フォローアップ（期末試験解答の解説など）	